

2023年12月6日

## 2023年度 中間連結決算

## 水際対策終了による国際需要の回復により増収増益 4期ぶりの黒字化

関西エアポート株式会社は、2023年4月から2023年9月までの第9期会計年度中間連結決算において、営業収益は854億円、営業損益は130億円の利益、経常損益は78億円の利益、中間純損益\*は52億円の利益を計上しました。

今中間期は、水際対策終了により航空旅客需要が着実に回復したことにより、前年度と比較すると、営業収益は107%の増加、営業損益では前期比251億円の増益、経常損益は252億円の増益、中間純損益では179億円の増益となり、4期ぶりに黒字化しました。

(連結損益計算書)

(単位：億円)

	2022.4-2022.9	2023.4-2023.9	増減	%
営業収益	412	854	442	+107%
外部費用	(316)	(505)	(189)	+60%
EBITDA	96	350	254	+264%
減価償却費	(218)	(220)	(2)	+1%
営業損益	(121)	130	251	-
経常損益	(174)	78	252	-
中間純損益*	(128)	52	179	-

\* 「中間純損益」は、「当社株主に帰属する中間純損益」を記載しています。

(航空需要の状況)

前年と比べると大きく航空需要が増加し、3空港合わせた航空機発着回数は16.7万回、航空旅客数は2,098万人と、前年度と比べそれぞれ27%増、96%増となりました。国際線につきましては、政府による水際措置が終了したことで復便・増便が進み、国際旅客便は大きく回復し、国際線旅客数は前年の14倍と大きく増加しました。国内線につきましても順調に回復しており、3空港合わせた発着回数は上半期として過去最高を記録しました。国際貨物便の発着回数は前年度を下回ったものの、2019年度比160%と依然高い水準を維持しております。

	2022.4-2022.9	2023.4-2023.9	増減	増減率
航空機発着回数（万回）	13.2	16.7	3.5	+27%
関西国際空港	4.6	8.0	3.4	+74%
大阪国際空港	6.9	6.9	0.0	+1%
神戸空港	1.7	1.7	0.0	+2%
航空旅客数（万人）	1,072	2,098	1,025	+96%
関西国際空港	350	1,186	836	+239%
大阪国際空港	581	739	158	+27%
神戸空港	142	173	31	+22%

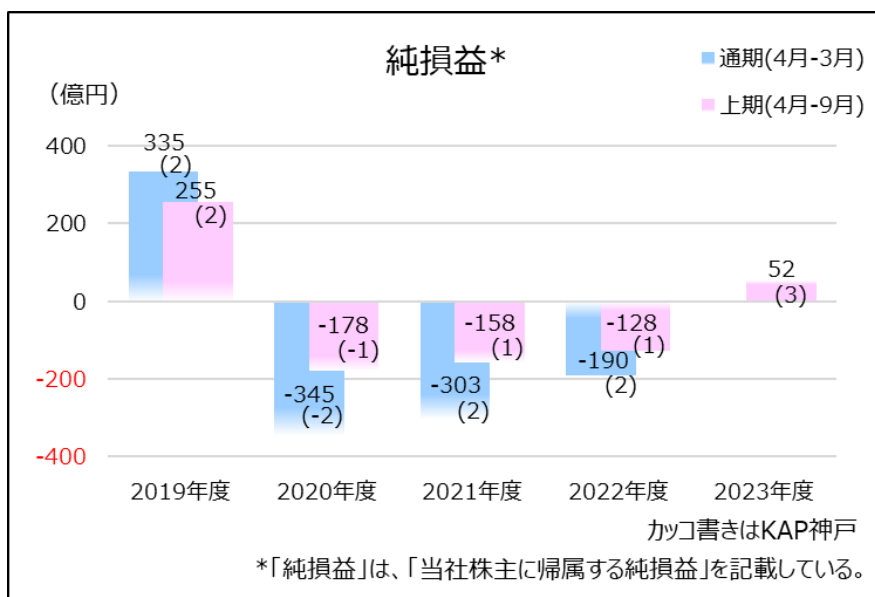
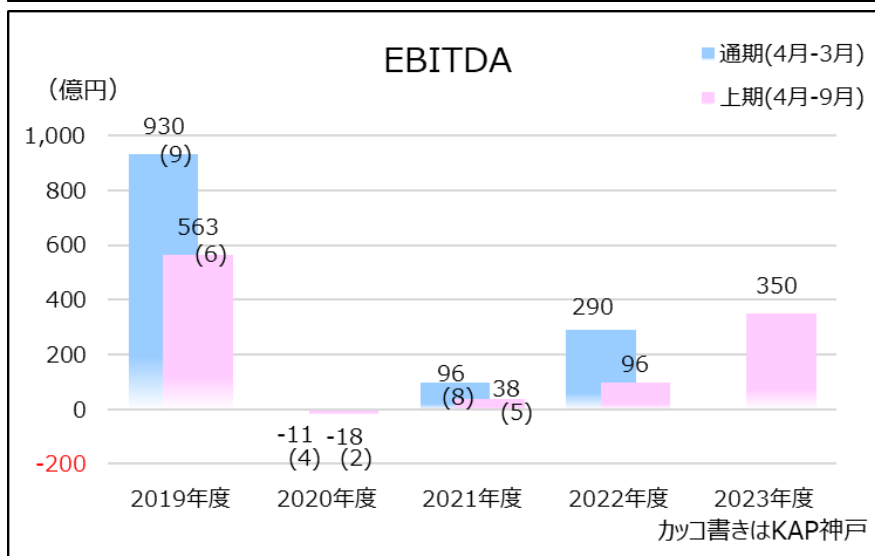
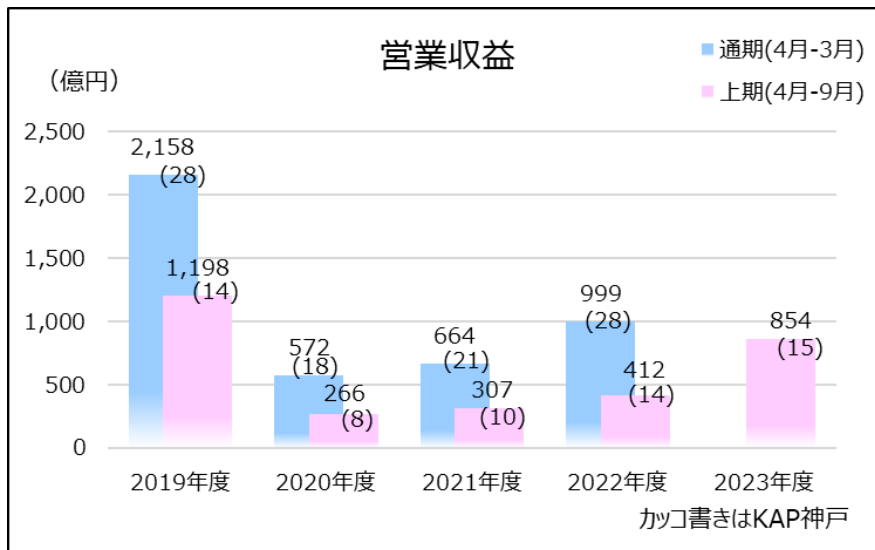
（連結貸借対照表）

2023年9月30日現在における財政状態は、前期末と比べると公共施設等運営権の償却により、資産合計は1兆5,942億円となりました。また、短期借入金の返済などにより負債が減少した結果、負債合計は1兆5,614億円となりました。

（単位：億円）

	2023.3.31 現在	2023.9.30 現在	増減
流動資産	938	1,047	109
固定資産	15,104	14,895	(209)
<b>資産合計</b>	<b>16,041</b>	<b>15,942</b>	<b>(99)</b>
流動負債	703	676	(27)
固定負債	15,066	14,937	(129)
<b>負債合計</b>	<b>15,769</b>	<b>15,614</b>	<b>(155)</b>
株主資本	246	298	52
その他の包括利益累計額	6	10	4
非支配株主持分	20	21	1
<b>純資産合計</b>	<b>272</b>	<b>328</b>	<b>56</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>16,041</b>	<b>15,942</b>	<b>(99)</b>

(参考資料) 連結決算の推移



**【報道関係の方からのお問い合わせ先】**

関西エアポート株式会社  
グループコーポレートコミュニケーション部 パブリックリレーション  
Tel : 072-455-2201

# 連結損益計算書

〔自 2023 年 4 月 1 日〕  
〔至 2023 年 9 月 30 日〕

(単位: 百万円)

営業収益		85,392
営業原価		62,590
営業総利益		22,801
販売費及び一般管理費		9,798
営業利益		13,003
営業外収益		1,320
受取利息及び配当金	246	
その他の営業外収益	1,074	
営業外費用		6,488
支払利息	6,081	
支払手数料	17	
持分法による投資損失	4	
その他の営業外費用	386	
経常利益		7,835
特別利益		0
補助金収入	0	
特別損失		359
固定資産除却損	235	
更新投資に伴う撤去費用	124	
税金等調整前中間純利益		7,476
法人税、住民税及び事業税	822	
法人税等調整額	1,392	
中間純利益		5,261
非支配株主に帰属する中間純利益		81
親会社株主に帰属する中間純利益		5,180

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)

# 連結貸借対照表

[2023年9月30日現在]

(単位: 百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流動資産	104,693	流動負債	67,635
現金及び預金	78,756	買掛金	3,784
売掛金	8,319	未払金	15,429
契約資産	135	未払費用	4,838
商 品	4,631	1年内返済予定の長期借入金	4,152
原材料及び貯蔵品	1,336	1年内支払予定の公共施設等運営権に係る負債	30,407
1年内回収予定の差入保証金	2,220	未払法人税等	1,294
未 収 金	4,768	契 約 負 債	2,724
そ の 他	4,524	賞 与 引 当 金	1,590
貸倒引当金	0	ポ イ ン ト 引 当 金	38
		そ の 他	3,374
固定資産	1,489,498	固定負債	1,493,749
有形固定資産	27,123	社 債	4,860
建物及び構築物	3,469	長 期 借 入 金	214,248
機械装置及び運搬具	14,361	公共施設等運営権に係る負債	1,206,656
工具器具備品	4,004	特 別 修 繕 引 当 金	51,196
土 地	578	退 職 給 付 に 係 る 負 債	6,862
建設仮勘定	4,647	そ の 他	9,925
そ の 他	61		
無形固定資産	1,328,371		
公共施設等運営権	1,259,933		
更新投資に係る資産	66,672	負 債 合 計	1,561,385
そ の 他	1,764	純 資 産 の 部	
投資その他の資産	134,004	株 主 資 本	29,774
投資有価証券	1,000	資 本 金	25,000
退職給付に係る資産	321	資 本 剰 余 金	25,000
差入保証金	87,264	利 益 剰 余 金	△ 20,225
繰延税金資産	43,941	その他の包括利益累計額	981
そ の 他	1,536	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	981
貸倒引当金	△ 59	非支配株主持分	2,050
		純 資 産 合 計	32,806
資産合計	1,594,192	負債・純資産合計	1,594,192

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)



関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社と VINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITAMI）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016年4月1日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018年4月1日からは関西エアポート株式会社の100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港（KOBE）の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西3空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: [www.kansai-airports.co.jp/](http://www.kansai-airports.co.jp/) をご参照ください。

#### 関西エアポート株式会社（関西国際空港および大阪国際空港の運営）

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 大阪市西区西本町一丁目4番1号（登記上）	株主	オリックス 40%、 ヴァンシ・エアポート 40%、 その他の出資者 20% <sup>1</sup>
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

#### 関西エアポート神戸株式会社（神戸空港の運営）

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港1番	株主	関西エアポート株式会社 100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



#### オリックスグループについて

1964年に設立されたオリックスグループは、法人金融、産業/ICT機器、環境エネルギー、自動車関連、不動産関連、事業投資・コンセッション、銀行、生命保険など、多角的に事業を展開する企業グループです。現在は、世界約30カ国・地域において、約35,000人の役職員により事業を展開しています。

オリックスグループの社会における存在意義は、「世の中がよりよい方向に進むきっかけとなる、“未来をひらくインパクト”をもたらすこと」です。このPurposeを軸に、グローバルで一体となり、社会に貢献してまいります。

詳細は <https://www.orix.co.jp/grp/> をご覧ください。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、13カ国において70以上の空港を運営しています。総合インテグレーターとしてのノウハウを駆使して空港の開発、資金調達、建設、運営を行うとともに、その投資能力と専門知識を活かした空港運営の最適化、施設改修、環境経営推進に取り組んでいます。

ネットワーク全体で2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするため、2016年から他の空港運営事業者に先駆けて国際的な環境戦略を展開しています。

詳細は [www.vinci-airports.com](http://www.vinci-airports.com) をご覧ください。

<sup>1</sup> 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社JTB、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニックホールディングス株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構

# 2023年度 中間連結決算

2023.12.6



Shaping a New Journey

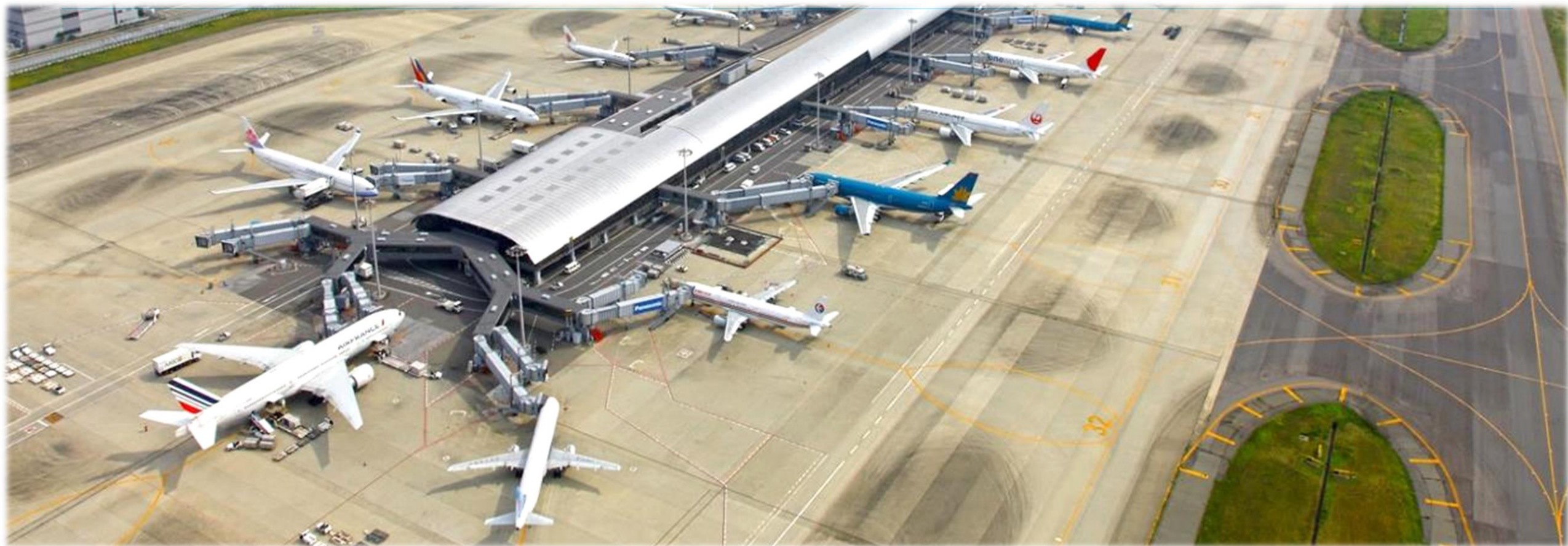


# アジェンダ

- 2023年度 中間連結決算の概要
- 営業収益分析
- 2023年度の取り組み
- 質疑応答







# 2023年度 中間連結決算の概要

# 水際対策の終了による航空需要増加に伴い、4期ぶりの黒字化

【単位：億円】

1. 水際対策の終了に伴い、順調に航空需要は回復。

2. 国際線を中心とした発着回数・旅客数の増加を受け、前年と比べ大幅な増収。

3. 費用の削減に継続して取り組み、前年からは損益改善、中間期としては4期ぶりに黒字化。

	2022.4-2022.9	2023.4-2023.9	増減	%
営業収益	412	<b>854</b>	+442	+107%
EBITDA	96	<b>350</b>	+254	+264%
営業損益	(121)	<b>130</b>	+251	-
経常損益	(174)	<b>78</b>	+252	-
中間純損益*	(128)	<b>52</b>	+179	-

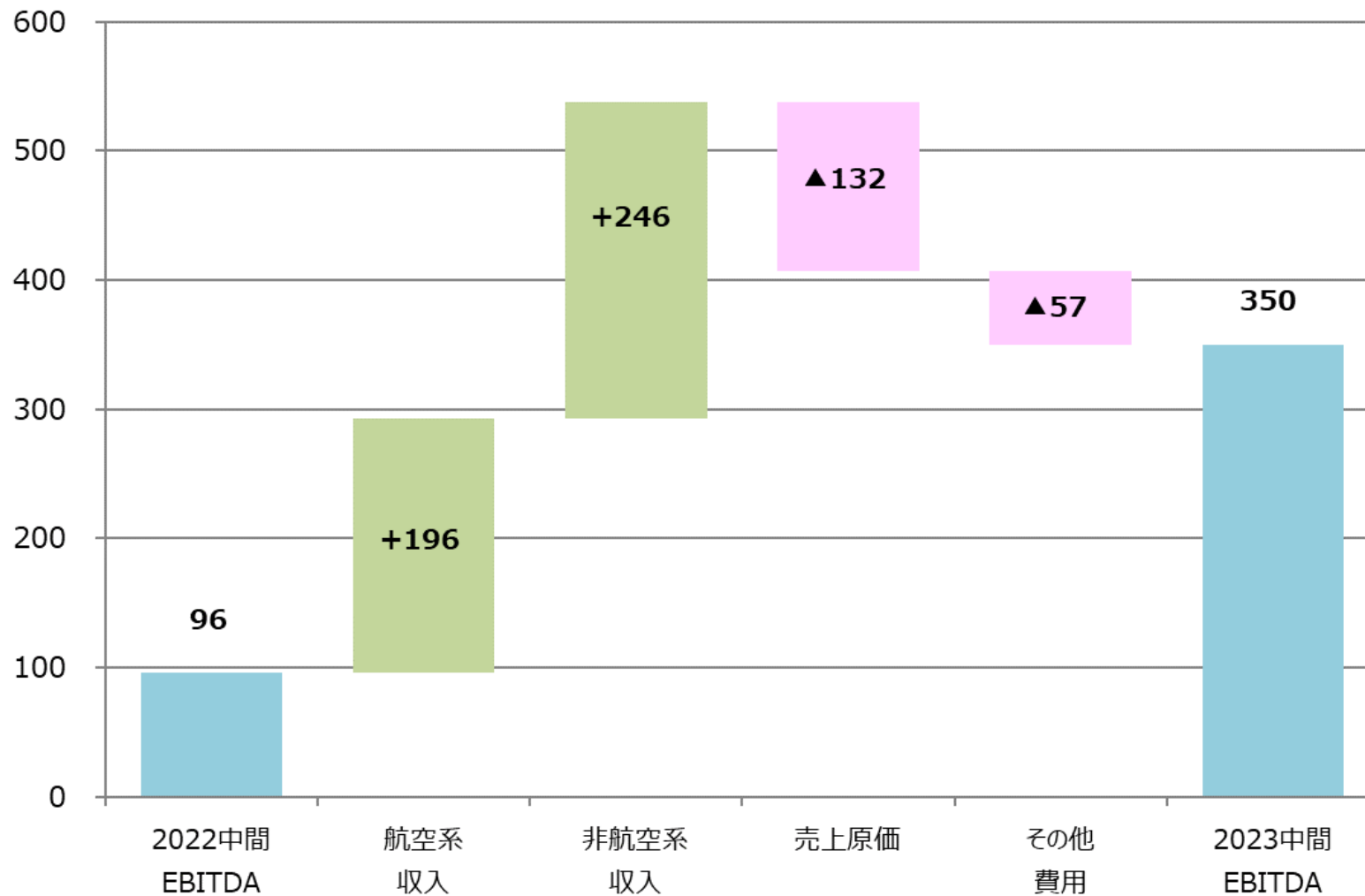
# 経営成績

【単位：億円】

	2022.4-2022.9	2023.4-2023.9	差額	%
営業収益	412	854	442	+107%
航空系	177	373	196	+111%
非航空系	235	481	246	+104%
営業費用（減価償却費除く）	(316)	(504)	(188)	+60%
EBITDA	96	350	254	+264%
減価償却費	(218)	(220)	(2)	+1%
営業損益	(121)	130	251	-
営業外損益	(52)	(52)	1	-1%
経常損益	(174)	78	252	-
特別損益	(8)	(4)	4	-54%
法人税等、非支配株主帰属損益	54	(23)	(77)	-
中間純損益*	(128)	52	179	-

# EBITDA (前年比)

【単位：億円】



# バランスシート

【単位：億円】

	2023.3.31現在	2023.9.30現在	増減
流動資産	938	1,047	109
うち 現金及び預金	717	788	71
固定資産	15,104	14,895	(209)
<b>資産合計</b>	<b>16,041</b>	<b>15,942</b>	<b>(99)</b>
流動負債	703	676	(27)
固定負債	15,066	14,937	(129)
<b>負債合計</b>	<b>15,769</b>	<b>15,614</b>	<b>(155)</b>
株主資本	246	298	52
その他の包括利益累計額	6	10	4
非支配株主持分	20	21	1
<b>純資産合計</b>	<b>272</b>	<b>328</b>	<b>56</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>16,041</b>	<b>15,942</b>	<b>(99)</b>
<b>【参考】</b>			
有利子負債残高	2,332	2,233	(99)

公共施設等  
運営権等

公共施設等  
運営権に係る負債等



# 營業收益分析

# 航空系：4月に水際措置が終了したことにより回復が進む

→ **3空港合計の旅客数は2,098万人となり、2019年度上期比で79%まで回復。発着回数は前年度上期から27%増。**

## → 国際線旅客数・発着回数

2023年4月の水際措置の終了に伴い、国際線旅客便の回復が一段と進んだことから、関西国際空港における国際線の発着回数は前年度上期から170%増。国際線旅客数は旺盛なインバウンド需要に牽引され840万人となり、2019年度上期比で66%まで回復。

## → 3空港国内線旅客数・発着回数

3空港合計の国内線旅客便発着回数は高水準を維持しており、年度上期として過去最高を更新。旅客数は、ビジネス需要の回復が遅緩傾向にあるものの、安定的な旅客流動と全国旅行支援等需要喚起施策の実施にも支えられ、2019年度上期比で92%まで回復。

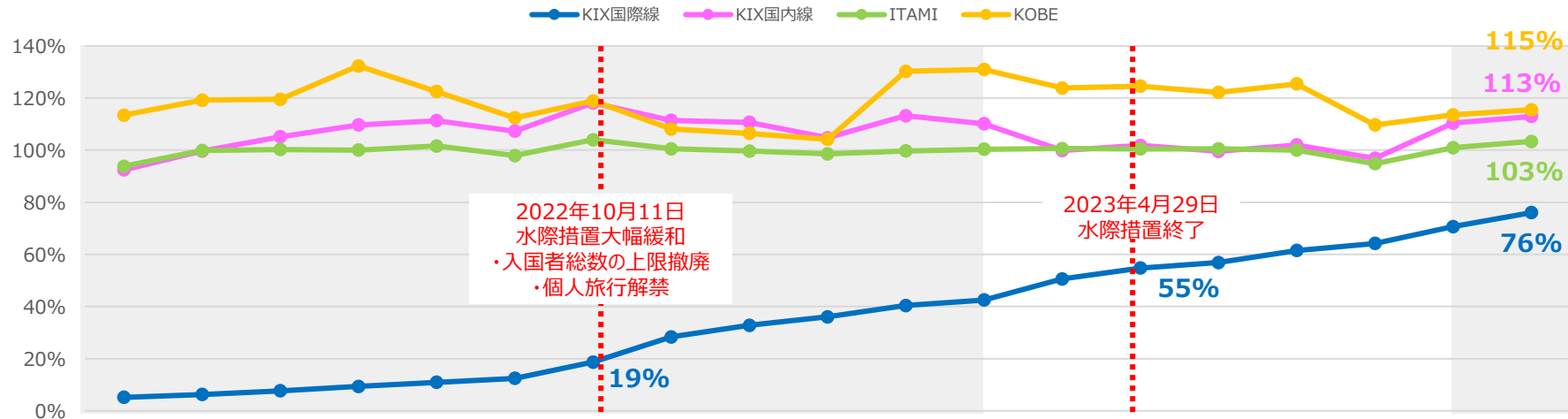
## → 国際線貨物便

国際線貨物便の発着回数は旅客便の回復に伴う貨物輸送スペースの増加等により前年からは減少傾向にあるものの、コロナ禍で定着したE-commerce関連の需要が好調なこともあり、2019年度比では依然高水準を維持。

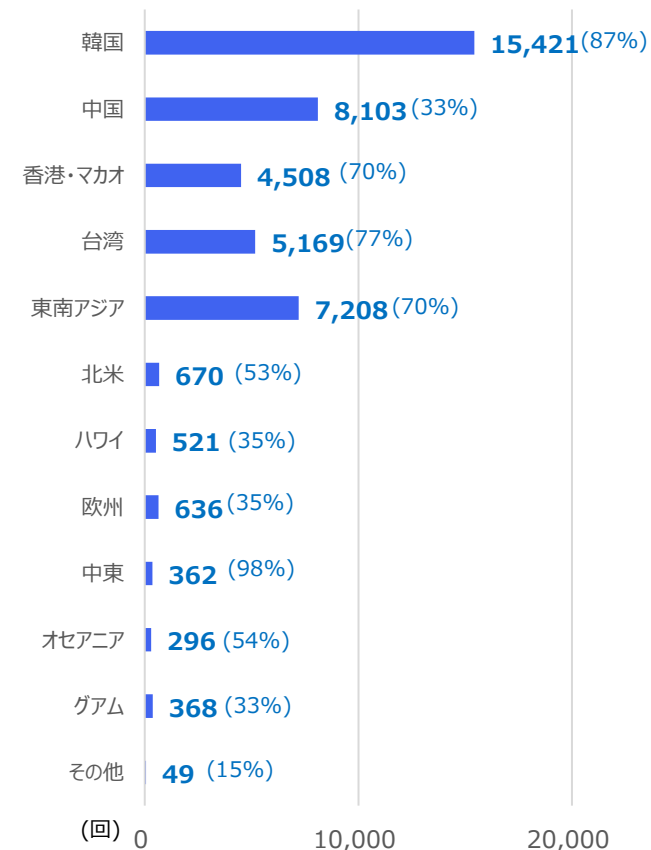
	2022年度 上期	2023年度 上期	前年度比	2019年度 上期比
<b>発着回数（万回）</b>	<b>13.2</b>	<b>16.7</b>	<b>+27%</b>	<b>-13%</b>
関西国際空港（国際線）	2.0	5.5	+170%	-31%
関西国際空港（国内線）	2.6	2.5	-2%	-1%
大阪国際空港（国内線）	6.9	6.9	+1%	-1%
神戸空港（国内線）	1.7	1.7	+2%	+11%
<b>航空旅客数（万人）</b>	<b>1,072</b>	<b>2,098</b>	<b>+96%</b>	<b>-21%</b>
関西国際空港	350	1,186	+239%	-27%
国際線	60	840	+1310%	-34%
日本人旅客	27	173	+534%	-57%
外国人旅客	32	659	+1955%	-24%
国内線	290	346	+19%	-3%
大阪国際空港	581	739	+27%	-12%
神戸空港	142	173	+22%	+1%
3空港国内線（万人）	1,013	1,258	+24%	-8%

# 航空系：関西3空港 発着回数（2019年度比）

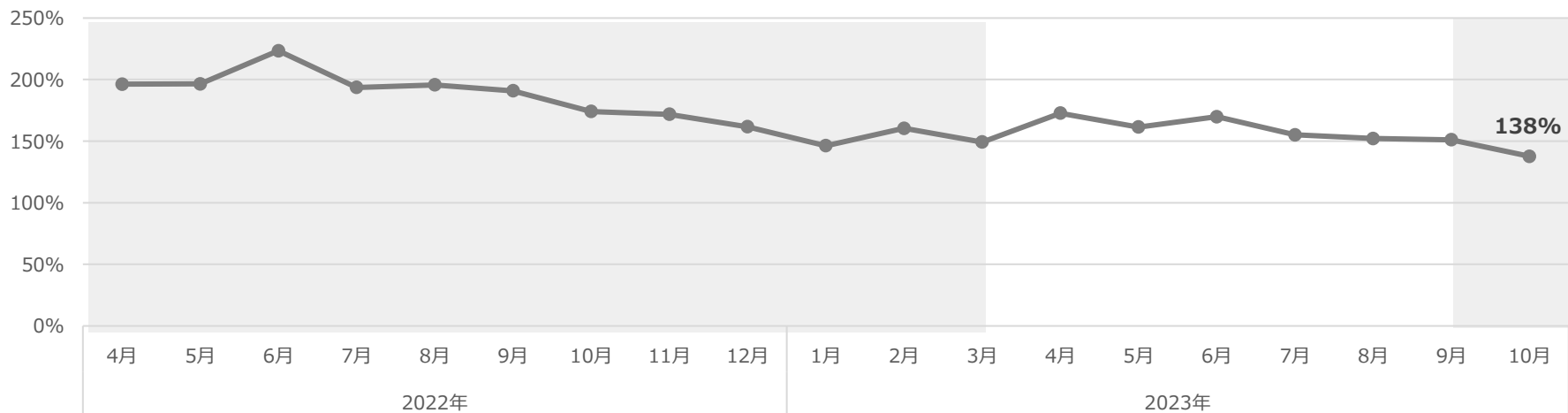
旅客便\* 2022年4月－2023年10月



国際旅客便 2023年4月-2023年9月  
方面別発着回数\*\* および2019年度上期比回復率



国際貨物便 2022年4月－2023年10月

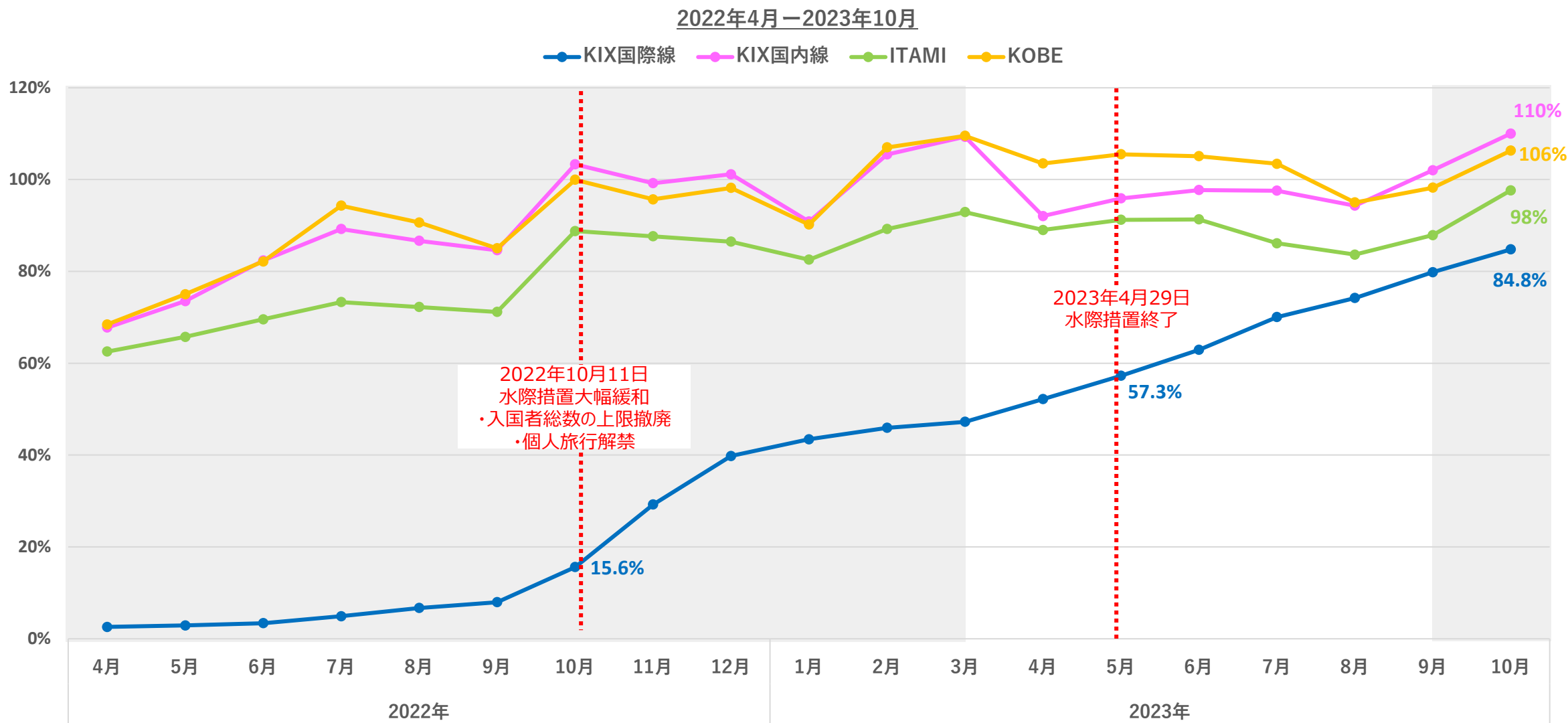


\* 旅客便に関しては、2020年2、3月はすでに新型コロナウイルスによる影響を受けていたため、2023年2、3月は2018年度比で記載

\*\*国際旅客便には、貨物輸送を目的とする運航が一部含まれる



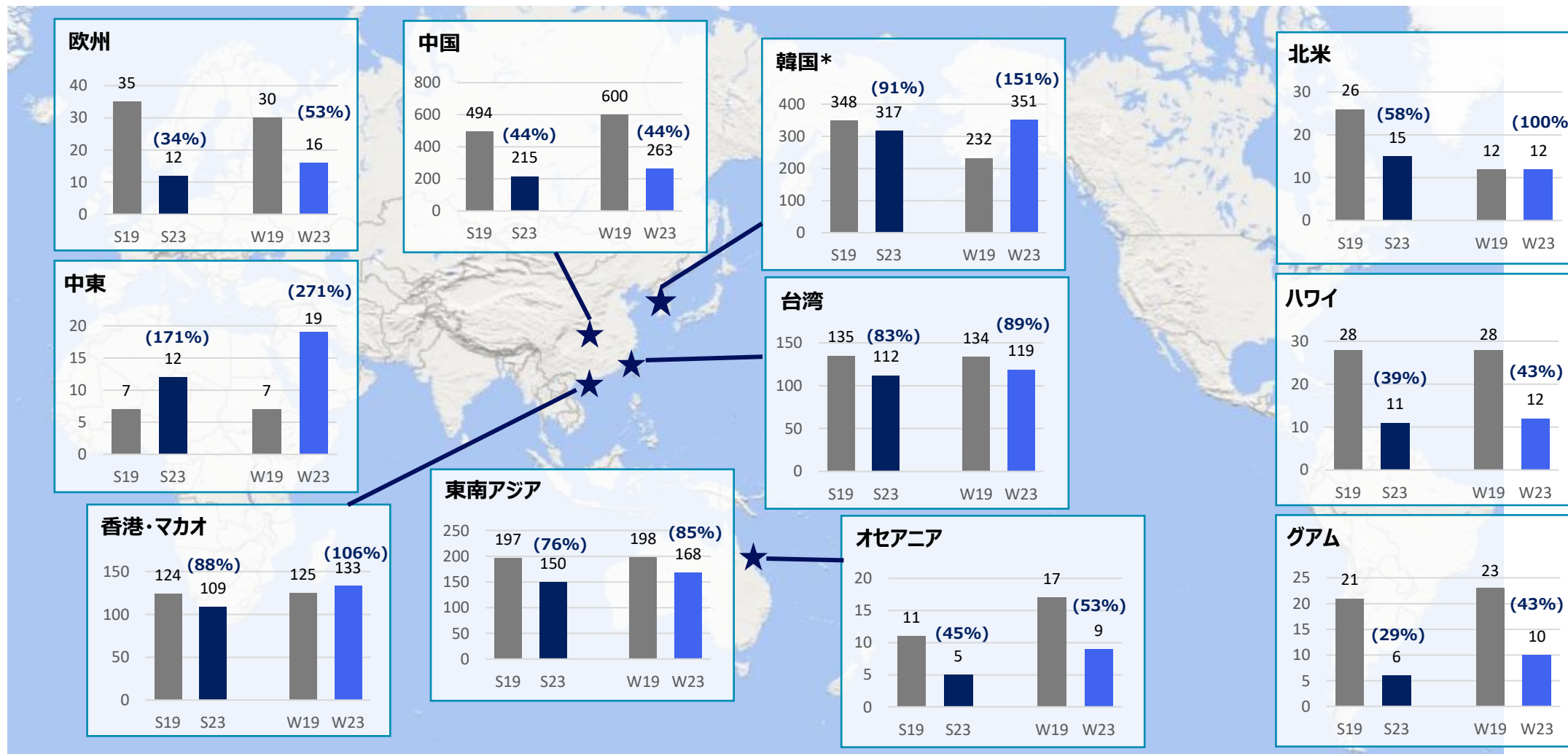
# 航空系：関西3空港 旅客数（2019年度比）



# 航空系：2023年度 国際旅客定期便 2023年11月21日時点

- ・ S23 は2023年夏期スケジュール10月ピークの便数
- ・ W23 は2023年冬期スケジュールの3月の計画便数
- ・ グラフ中 ( )内の数値は2019年夏期/冬期スケジュールとの同期比較の便数回復率

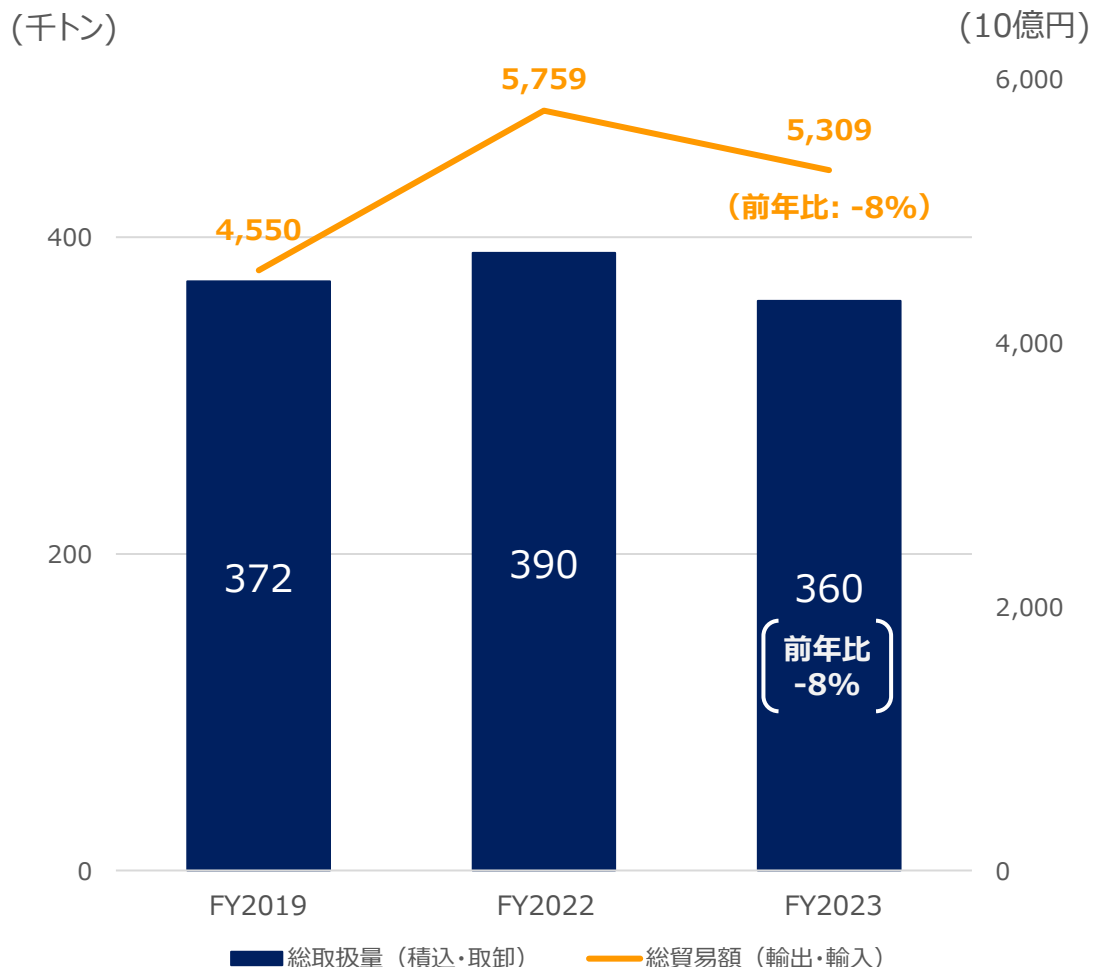
**W23 : 1,112便** (W19比回復率**79%** / 中国除**105%**) W23計画(10/25時点) : 1,086便 (W19比回復率77% / 中国除**103%**)



\* 2019年冬期スケジュール実績は外交問題の影響により韓国方面の便数が落ち込んでいたことから19年比は高い水準となっている。(外交問題の影響を受ける前の2019年夏期スケジュール実績と比較した場合の19年比は101%。)

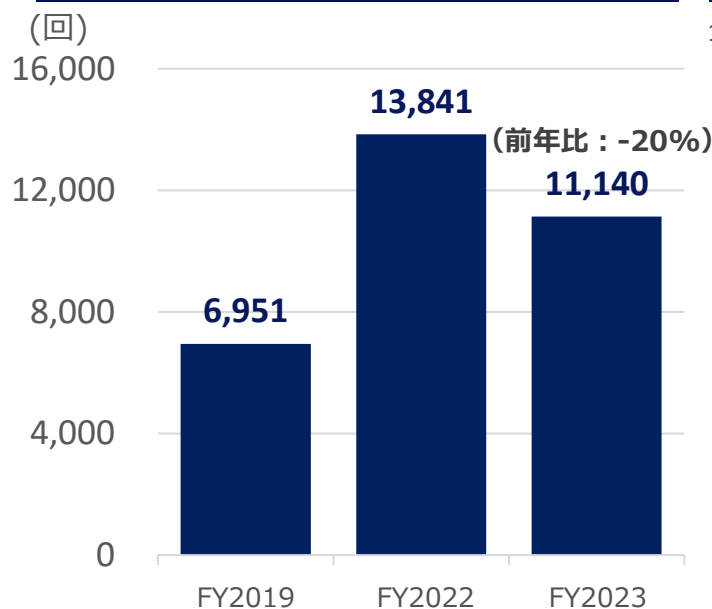
# 国際貨物：発着回数・貨物量・貿易額

## KIX/国際線貨物量・貿易額

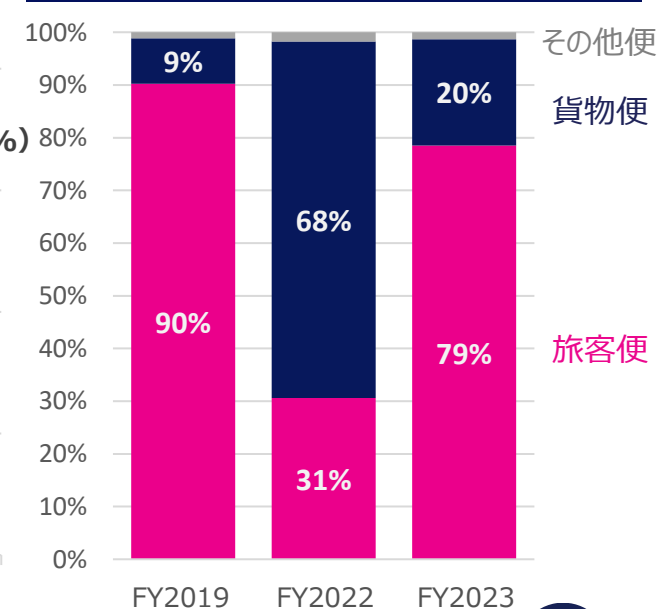


- ✧ 旅客便の回復に伴う貨物輸送スペースの供給増加により、貨物便の発着回数は減少しているものの、依然としてコロナ前比で高水準を維持。
- ✧ ウクライナ情勢に端を発する急激な物価高による世界的な経済・物流の鈍化に加え、大型の新型コンテナ船の投入により一部の貨物需要が海上輸送に回帰したことから、昨年度比で貨物量・貿易額ともに減少した。
- ✧ しかしながら、E-commerce需要は引き続き好調。

## 国際線貨物便発着回数

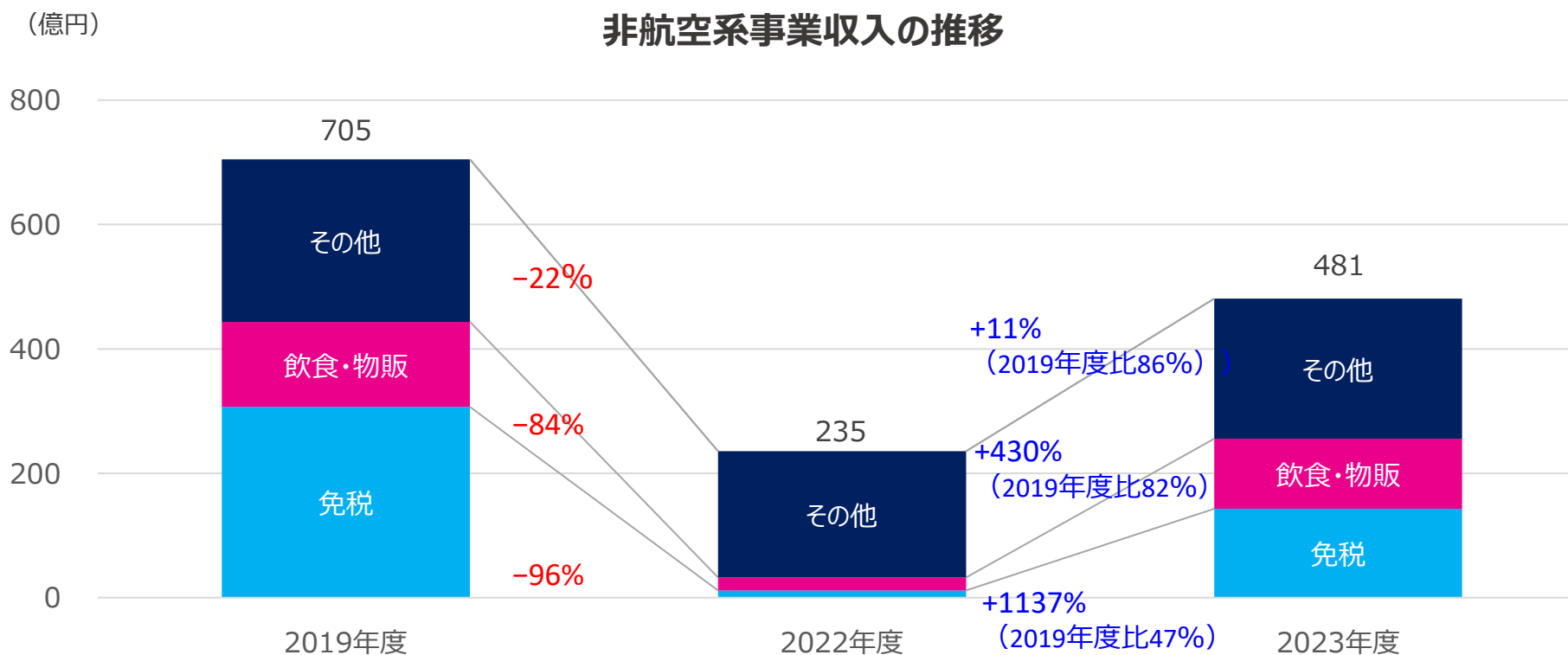


## KIX/国際線発着回数シェア



# 非航空系：国際線旅客の増加に伴い上期収入が倍増

- 国際線旅客の回復により、2023年度上期の非航空系事業収入は前年から倍増、2019年度の7割程度まで回復。
- 2022年10月以降、一般エリアの飲食店を順次開店。旅客数の増加に対応するため、営業店舗や営業時間の確保、仮設店舗の設置等を行った。



# 非航空系：新規店舗について

## ● 2023年8月より一般エリアに飲食店舗が順次オープン

- 一般エリア（第1ターミナルビル2階）に9店舗が新たにオープン

2023年8月8日：2店舗、10月1日：2店舗、12月1日：4店舗

2024年2月頃：1店舗

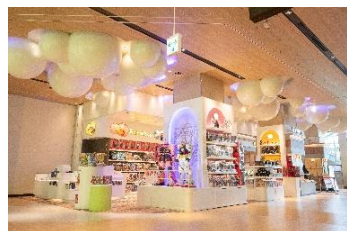


## ● 2023年12月5日 新国際線出国エリアオープン

- 南北の出国審査場を中央に集約
- 国際線保安検査後に27店舗がオープン

（ 飲食：9店舗、物販：7店舗、免税：1店舗、ブティック：9店舗、サービス：1店舗 ）

※オープン概要の詳細は[こちら](#)よりご確認ください





## 2023年度の主な取り組み

# 2023年度上期の主な取り組み

## 3空港

- ・関西初「ACIアジア太平洋地域総会」を神戸市で開催（5/16～18）
- ・関西3空港の合同採用ホームページを新たに開設（9/1）
- ・関西3空港で空の日イベントの実施を発表（9/1, 9/15, 9/20）

## KIX

- ・KIXで採取した海藻を阪南市へ移植（4/25）
- ・海外旅行の博覧会 in 梅田を開催（7/22）
- ・夏休み特別企画「親子環境ツアー」を開催（8/8）

## ITAMI

- ・大阪国際空港ウェディングプラン企画（7/7～）
- ・新しいフォトスポット「そらやん」ARの誕生（7/27）
- ・国内最大規模数のEV充電用コンセントの導入を発表（8/1）

## KOBE

- ・KOBEランウェイウォークを開催（7/22）
- ・夏休み遊覧フライトと空のお仕事教室を開催（8/22）
- ・大阪駅から直通バスの運行開始（9/15～）



関西初「ACIアジア太平洋地域総会」を神戸市で開催



関西3空港の合同採用ホームページを新たに開設



KIXで採取した海藻を阪南市へ移植



海外旅行の博覧会 in 梅田を開催



新しいフォトスポット「そらやん」ARの誕生



夏休み遊覧フライトと空のお仕事教室を開催



# 質疑応答